



### タイプラスワンでより効率的な生産活動を！ ～ラオス・カンボジア進出の利点と弱点～

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所

#### タイプラスワンの現状

タイには、現在 4,500 社程度の日系企業が進出しており（出典：JETRO「タイ日系企業進出動向調査（2014 年度調査）」）、東南アジアにおける日本企業の大集積地となっています。その一方で、タイ国内での賃金の上昇、政治的混乱、洪水のリスクなどを背景に、近年では一部の工程などをより人件費の安い周辺国へ移管する、いわゆるタイプラスワンの動きが見られます。

今回シンガポール事務所では、東京都立産業技術研究センターおよび東京都中小企業振興公社と連携し、新たな投資先として注目される、ラオスおよびカンボジアを訪問し、JETRO や経済特区、現地進出企業への聞き取り調査を実施しました。その調査結果をもとに、ラオスとカンボジアの現状についてご紹介します。

#### 中小規模工場向き！ ラオスへの進出について

##### 首都ビエンチャンの印象

ラオスの首都であるビエンチャンは、高いビルが少な



ラオスの街並み

く、また東南アジアのほかの大都市に比べて車も少なく交通渋滞もあまりありません。町はコンパクトで、昼間は活気がありますが夜間になると歩いている人も開いている店も少なくなり、静かな町です。一方で、建設中の大型施設もあり、これからの発展が期待されます。

##### 国民性

ラオスは、最低賃金が月 111 ドルと安く、また平均年齢も 24.4 歳と若い国です。国民性としては、もともと地場産業として織物に従事している人が多いため、手先が器用な人が多い傾向にあります。日本人への感情としては、日本は長年 ODA などで協力しているため、親日的な人が数多くいます。人口は少ないですが、地元の仕事がないためにタイへ出稼ぎに行く人もいるため、潜在的な人材供給力がありそうです。また、ラオス人は一般的に、不満を感じると辞めてしまう人が多いようです。

##### タイ語と類似している言語

ラオス語とタイ語は類似しており、タイ語を理解できるラオス人が多いため、すでにタイに進出している企業は、タイ人スタッフに手伝ってもらうことができます。ただし、ラオス人はプライドが高いこと、その一方でタイ人はラオス人に対して優越感を持っていることには注意する必要があります。

##### 政治と資源、政府の支援

国としては、政治的混乱や自然災害がなく、非常に安定しています。さらに、天然資源に恵まれ、土地代も低位推移しているほか、電力も廉価で豊富にあります。

投資企業にとっては、手厚い税金優遇策も魅力の一つです。法人税の免除期間は最大で 10 年間あり、その後も 8～10 %の軽減税率が無期限に適用されます（※）。そのほかにも、個人所得税や関税などの減免もあり、外国資本誘致に力を入れています。

## ラオスの課題

ラオスは内陸国であるため、港までの輸送に時間と費用がかかります。また、前述のとおり、辞めてしまう場合が多く、労働争議のリスクが低いものの、離職率も高くなっています。また、電力は豊富にありますが、地域によっては送電が安定していないため、停電することがあります。

## ラオスへの進出可能性

JETRO ビエンチャン事務所によると、上述の背景から、廉価な大量生産品よりも、手作業を必要とし、付加価値の高い製造業に向いているとのことで、実際に、大量生産の流行製品は中国の工場で生産し、技術が必要な製品はラオスの工場で生産している縫製工場もあります。また、規模としては、人口希薄な地域であるため500人程度までの中小規模工場が向いており、輸送コストが高いことから小さくて軽い製品が向いているとのことでした。

今回、ビエンチャン近郊にある「VITA パーク」経済特区（SEZ）を訪問しましたが、現在の区域内はすべて契約済みであり、拡張を検討中とのことでした。タイのバンコク港やレムチャバン港まで700km以内であるほか、ベトナムのヴィン港まで460km程度と、ベトナム側に行くこともできます。

実際に進出企業を訪問したところ、利点としては人件費が安いほか、手先が器用で立ち仕事に慣れていること、課題としては飽きやすく生産性が悪く、労働意欲が低いことを挙げていました。

いずれにしても、事前の実地調査などにより、高い輸送費などをクリアする製造規模や製造工程を見極める必



VITA パークの日系企業訪問（外観）

要がありそうです。

※現在法改正手続き中のため、変更される可能性があります。

## タイ国境に注目！ カンボジアへの進出について

### 首都プノンペンの印象

カンボジアの首都プノンペンは、急激に発展しており、近年日系の商業施設も進出して人気を集めているほか、高層ビルが次々に建設されています。プノンペンに限れば裕福な人が多く、高級な住宅や車、外資系のレストランやカフェなどが多くみられました。

### カンボジアの経済特区

プノンペンのSEZにはすでに50社ほどの日系企業が進出しています。プノンペンは工場が多く、物価も高いために賃金も高騰しており、労働争議も発生しています。一方で地方ではまだ最低賃金で雇用できるなど、廉価な労働力は引き続き魅力です。

また、今回訪問したポイペト市のサンコーポイペトSEZ付近は、工場がまだほとんど進出していないため、SEZの労働者登録所には1,000人以上登録されているとのことでした。

また、カンボジアの主な輸出産業は縫製業ですが、特にタイ国境付近では、タイの出稼ぎや内職などで、縫製経験のある人が多いとのことでした。

インフラとしては、南部経済回路がバンコクまでつながっており、タイ国境付近であれば3~4時間でバンコクまで輸送ができます。

### 政治と政府の支援

政治は現在安定しています。また、カンボジア開発協議会（CDC）は外資に対して非常に歓迎的で、環境に影響がない輸出産業であれば、積極的に認可・優遇しています。CDC内にはジャパンデスクもあり、日本語で情報提供しているほか、日本語のガイドブックも作成しています。優遇措置としては、最大9年間の法人税免税もしくは特別償却（選択制）、関税や付加価値税の減免などを受けることができます。

また、通関手続きも簡単で、国境20km以内であればタイのトラックが乗り入れられるといった、タイプラスワンとして進出を検討する企業には有利なメリットがあります。



観光客で賑わうアンコールワット



ポイペト SEZ の日系企業訪問（今後入居）

### カンボジアの課題

プノンペンではすでに多くの工場が進出しており飽和状態であること、また、カンボジア政府が SEZ の認可に積極的であるために 38 か所もの SEZ が認可されているものの、有名無実な SEZ もあることなどから、進出にあたってはさまざまな場所を比較検討すべきです。

また、国内の物流コストや電気代が高止まりしていることも、課題の一つです。安い人件費が高い物流コストで相殺されないよう、入念に見積もる必要があります。

カンボジアではいまだ学校や教師が不足しており、十分な教育を受けられていない人もいます。今回訪問した工場の一つでは、小学校を出ている人が半数程度しかおらず、文字を読むことはできるが書くことができない労働者が多い、という実態が分かりました。

### カンボジアへの進出可能性

全体的には、カンボジアでは最低賃金で雇用できる地域が多く、実賃金が上昇している国と比べて、コスト面でのメリットを感じているようです。

また、今回訪問したサンコーポイペト SEZ では、労働力が豊富で安く、質も高い上、離職率も大変低いということでした。一方で、今まで工場がなかったため、工場働いた経験のある人が少なく、決められた時間に長時間働くことに対して慣れるまで時間を要したそうです。

同 SEZ では、日系の企業が運営し、土地を用意するだけでなく、電気の供給や手続き支援、労働者の紹介も行っていることから、日系企業にとっては比較的安心して投資できる環境です。

タイの工場から設備を一部移転する際は、輸送コスト

と人件費とが見合うかが問題となりますが、進出企業に聞き取ったところ、タイ国内の工場より、むしろ搬出先工場から近くなり輸送コストも軽減できた事例もありました。

国境付近への進出のデメリットとしては、日本人駐在員が満足できるような住宅が近隣になく、娯楽も少ないことが挙げられます。サンコーポイペト SEZ 入居企業で働く日本人駐在員の方は、ホテルに宿泊している場合もあるそうです。

### 東南アジアでの活動を考えたときは… クリアシンガポール事務所を ご活用ください!

クリアシンガポール事務所では、東南アジアで活動をする自治体に向けてさまざまな最新情報を提供するとともに、相談に応じています。ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

【(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所】

電話番号：+ 65-6224-7927

E-mail：info@clair.org.sg

ホームページ： <http://www.clair.org.sg/j/index.html>

Facebook： <https://www.facebook.com/clairsg/>